

1 現代文・知識 漢字・語い

漢字・四字熟語を覚えよう！

音が同じで意味異なる語を「同音異義語」、訓が同じで意味異なる語を「同訓異字」と言います。



次の傍線部のカタカナを漢字で表したときに使われるものを下の【】のうちからそれぞれ一つずつ選び、○で囲もう。

- ① 性格が対シヨウ的な姉妹だ。 【照・象・称】
- ② 転職して新しい仕事にツク。 【着・就・付】

四字熟語

次の語句の意味として正しいほうを、ア・イのうちからそれぞれ選び、記号に○を付けよう。

- ③ 朝令暮改
 - ア 方針などがすぐくつがえること。
 - イ 何度も作り改めてより良くすること。
- ④ 二律背反
 - ア 同等に主張される二つの事柄が互いに矛盾して成り立たないこと。
 - イ 二つの考えのどちらにも属さない中立の立場。

④「背」は「そむく」という意味を持つ漢字だね。



答え ①照 ②就 ③ア ④ア



今日のゴール

日常生活で使用する漢字や語いを覚えよう！

取り組み日

月 日

取り組み時間

20分

基礎 チェックができた
応用 チャレンジしてみよう

基礎

問一 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなにそれぞれ直して書きなさい。

- ① 状況をタカイする策を練る。 【 】
- ② コユウの文化を大切にする。 【 】
- ③ 寺の境内の掃除をする。 【 】
- ④ アルバイトの報酬をもらう。 【 】
- ⑤ 精進料理を食べる。 【 】

応用

問二 次の傍線部と同じ漢字を使っている四字熟語を、【】のうちからそれぞれ一つずつ選び、○で囲みなさい。

- ① 意味深チヨウ(意味・意味が深く、含みがあること) 【朝三暮四・一長一短・捲土重来】
- ② 縦横無ジン(意味・自由自在。思う存分) 【獅子奮迅・一網打尽・傍若無人】

どんな漢字が使われるかを意味から考えてみよう。



応用

問三 傍線部のカタカナを漢字に直したとき、次の漢字になるほうの文をア・イのうちからそれぞれ選び、記号に○を付けなさい。

- ① 換算
 - ア カンサンとした冬の海辺。
 - イ 円をドルにカンサンする。
- ② 周知
 - ア 場違いなことを言ってしまった、シユウチを覚えた。
 - イ 君がこっそり出かけたのはシユウチの事実だ。



ことわざ・慣用句・抽象語を覚えよう!

ことわざ・慣用句

次のことわざ・慣用句の意味が合っていれば□に○を、間違っていれば×をそれぞれ書こう。

① 二の句が継げない

|| あきれたり、驚いたりして次の言葉が出てこないこと。

② 二兎を追う者は一兎をも得ず

|| 同時に二つのことをしても、どちらもうまくいかないこと。

③ 重箱の隅をつつく

|| 非常に奥ゆかしいさま。

抽象語

次の語句の意味として正しいものを、ア～エのうちからそれぞれ一つずつ選び、線で結ぼう。

- | | | |
|-----------|----|----------------------------|
| ④ シンドローム | ・ア | 常識 |
| ⑤ ステレオタイプ | ・イ | 紋切り型 <small>もんきりがた</small> |
| ⑥ コモンセンス | ・ウ | 正統的 |
| ⑦ オーソドックス | ・エ | 症候群 |

答え ① ○ ② ○ ③ × ④ × ⑤ × ⑥ × ⑦ ×

とやかく問題にする。()



基礎 問四

次の「よう」を使ったことわざ・慣用句の意味として正しいほうを、ア・イのうちからそれぞれ選び、記号に○を付けなさい。

① 奥歯に物が挟まったよう

ア 考えていることをはっきり言わない様子。

イ なんとなく居心地が悪い様子。

② 鳩が豆鉄砲を食ったよう

ア 食欲が旺盛な様子。

イ 突然のことに驚いて、目をまるくする様子。

③ 竹を割ったよう

ア 気性がさっぱりしている様子。

イ 勢いが激しくて止められない様子。

④ 地獄で仏にあったよう

ア 苦しく困っている時、思わぬ助けにあい喜ぶ様子。

イ その場所には似つかわしくない様子。

実際にその様子を思い浮かべて、意味を考えてみよう。



古文単語や係助詞の知識・「に」の識別を身につけよう!

係助詞の知識

係助詞：強意・疑問・反語などの意味を添える助詞。
文末が決まった形になる(係り結びの法則)。

係助詞	意味	結びの活用形
か・や	疑問・反語	連体形
なむ・ぞ	強意	連体形
こそ	強意	已然形

意味も忘れずに覚えておこう。



()の中の動詞を、□の係助詞の係り結びの法則にしたがって書き換えよう。

危うきこと や (あり)

助詞・助動詞の識別

「ありは」は行変格活用動詞だね。



「に」の識別(主なもの)

- ① 形容動詞ナリ活用^{ナリ}の連用形活用語尾…語幹の部分は独立させても主語にならない。性質や状態を表す。(例)この兎…大きになりまさる。
- ② 断定の助動詞「なり」の連用形…体言・連体形に接続。下に「あり・さぶらふ・はべり」などを伴う。(例)いかなる折に|かあらむ…。
- ③ 完了の助動詞「ぬ」の連用形…連用形に接続。下に助動詞「き・けり・けむ・たり」を伴うことが多い。(例)その人の名忘れに|けり。
- ④ 接続助詞…連体形に接続。連体形の下に「もの・こと」などの体言を補うことができない。(例)物語など…見せたまふに、…。

答え ある



今日のゴール
古文単語や文法の知識を身につけて、古文の文章を読めるようにしよう!

取り組み日

月 日

取り組み時間

分 / 20分

基礎 チェックができた
応用 チャレンジしてみよう

基礎 問一

- ① 次の各文の傍線部の意味を辞書などで調べて書きなさい。

- ② 十一|になりたまへど、程より大きに大人しう…。

応用 問二

次の表を参考にして、傍線部の「ば」が順接仮定条件か、順接確定条件かをそれぞれ書きなさい。

接続	意味	訳し方
未然形+「ば」	順接仮定条件	もし…ならば
已然形+「ば」	順接確定条件	…ので(原因・理由) …と(偶然的条件) …(する)ともいつも(恒常条件)

- ① 命長ければ、恥多し。 【 ー 】
- ② 悪人のまねとて人を殺さば悪人なり。 【 ー 】

基礎 問三

次の品詞が使われているほうを、ア・イのうちからそれぞれ選び、記号に○を付けなさい。

- ① 完了の助動詞「ぬ」の連用形「に」
ア 親たちは早く失せ給ひにき。
イ その子死してすでに二年なり。
- ② 断定の助動詞「なり」の連用形「に」
ア 人の与ふる恥に|あらず。
イ その人の名前忘れに|けり。

何の品詞のどの活用形に接続しているかを見よう。





現代語訳を参考にしながら、古文を読み取ろう！

まずは文章を読んでみよう！

昔、東の五条に、大后の宮おはしましける西の対に、住む人ありけり。それを、本意にはあらで、心ざしふかかりける人、行きとぶらひけるを、正月の十日ばかりのほどに、ほかにかくれにけり。ありどころは聞けど、人のいき通ふべき所にもあらざりければ、なほ憂しと思ひつつなむありける。またの年の正月に、梅の花ざかりに、去年を恋ひていきて、立ちて見、ゐて見、見れど、去年に似るべくもあらず。うち泣きて、あばらなる板敷きに、月のかたぶくまでふせりて、去年を思ひいでてよめる。

月やあらぬ春や昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして
とよみて、夜のほのほのと明くるに、泣く泣く帰りにけり。

〔伊勢物語〕による

【現代語訳】

昔、(京の)東の五条に、大后の宮が住んでいらつしやつた(お屋敷の)西の対に、住む人がいた。その人に対し、本心から(というふう)ではないが、(じつは)愛情が深かった人が、訪れていたのだが、一月十日あたりのころに、(その女は)よそへ姿を隠してしまった。居場所は聞いたけれど、普通の人が通える所では①②、やはりつらいと思ひながら過ごしていた。翌年の正月に、梅の花盛りのときに、去年を恋しく思つて(五条のお屋敷の西の対)に行つて、立って見たり、座つて見たりなどして、(梅の花を)眺めるが、去年(のすばらしさ)とは似ているはずもない。(男は)泣いて、(住む人もなく)がらんとした板敷きの間に、月が(西に)傾くまで(じつと)ふせて、去年を思い出して(和歌を)詠んだ。

月は昔と同じ月ではないのだろうか。春は昔の春ではないのだろうか。私の身だけは元の身(と同じ)なのに。(あの人がいなくなったせいで、)月も春も昔とは違つて見える。

と詠んで、夜がほのほのと明けるころに、泣く泣く帰つていった。

問四 上の文章を読んで、後の問いに答えなさい。



(1) 傍線部①「かくれにけり」の「に」の説明として最も適當なものを、ア～エのうちから一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 接続助詞「に」
- イ 動詞「かくる」の連用形の活用語尾
- ウ 断定の助動詞「なり」の連用形
- エ 完了の助動詞「ぬ」の連用形



(2) 傍線部②「あらざりければ」の現代語訳として最も適當なものを、ア～エのうちから一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア なかつたので
- イ なかつたところ
- ウ なかつたならば
- エ ないといつも



(3) 傍線部③「去年に似るべくもあらず」とあるが、なぜ去年とはすばらしさが違つたと男は思つたのか。最も適當なものをア～エのうちから一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 去年に比べ、梅の花があまり咲いていないから。
- イ 思いを寄せていた女性がもうここにいないから。
- ウ 住む人がいなくなつて荒れ果ててしまったから。
- エ 女がどこに行ったのかわからず、心が沈んでいるから。

男は和歌でどんなことを詠んでいるかな？ 去年とすばらしさが違つと思つた理由と同じだね。

「月」や「春」や「昔」の……の意味を思い出そう。



句形疑問形・反語形・二重否定の知識を身につけよう!

疑問詞を用いる疑問形・反語形

原則、疑問形は文末が連体形、反語形は文末が「未然形+ン(ヤ)」になるので、疑問形か反語形かはその場で判断する。

読み方

意味 ※()の中には、反語形の場合

何	いづくニ(カ) なんゾ なにヲカ	どこに(カ) どうして(カ) 何を(カ)
安	いづくニ(カ) いづくンゾ	どこに(カ) どうして(カ)
何為	なんすレゾ	どうして(カ)

二重否定

否定を重ねることによって、強い肯定や消極的な肯定を表す。

【1】の中は読み方

無レ不レ	A(セ)ズル(ハ・コト・モノ)ナシ	【1】の中は読み方
非レ不レ	A(セ)ズルニ	
無レ非レ	A(セ)ズルニ	
非レ無レ	A(セ)ズルニ	

()に当てはまるほうの語句を○で囲もう。

A(意味・Aでないものはない) 「無レ 非レ 無レ」

答え 無レ 非レ 無レ

今日のゴール 単語や句形の知識を身につけて、漢文の文章を書き下し、読めるようにしよう!

取り組み日 月 日

取り組み時間 分 20分

基礎 チェックができたらずき
応用 チャレンジしてみよう

基礎問題

① 次の各文の現代語訳として最も適当なものを、ア〜ウのうちからそれぞれ一つずつ選び、記号に○を付けなさい。

- ① 非レ 不レ 悪レ 寒レ 寒
ア 寒いことを憎まないのだから。
イ 寒いことを憎まないのではない。
ウ 寒いことを憎まないのだろうか。

- ② 何 為 不レ 執レ 弓
ア どうして弓をとらないのか。
イ どうして弓をとるのか。
ウ どうして弓をとらないのか、いや、とる。

応用問題

① 次の各文の傍線部の意味を辞書などで調べて書きなさい。

① 百姓 有 過、在 予 一人

② 公 宜 知 之

① 「百姓」は日本語の「百姓」とは意味が違うので注意!

② 「宜」は再読文字だよ。

ここまでで 10分

書き下し文、現代語訳を参考にしながら、漢文を読み取ろう！

まずは文章を読んでみよう！

夏侯太初嘗倚柱作書時大雨、
 霹靂破所倚柱。衣服焦然，神色無
 變，書亦如故。賓客左右，皆跌蕩不
 得住。

『世説新語』による

- (注) 1 夏侯太初—人名。 2 霹靂—雷。
 4 神色—顔色。 5 賓客—來客。
 7 跌蕩—うろたえて転ぶ。

《書き下し文》

夏侯太初嘗て柱に倚りて書を作る。時に大いに雨ふり、霹靂故の如し。賓客左右、皆跌蕩して住まるを得ず。

《現代語訳》

夏侯太初があるとき柱に寄りかかって手紙を書いていた。そのとき大雨が降り、雷が(太初が)寄りかかっていた柱を貫いた。(太初)衣服が燃えて焦げたけれど、(太初)顔色は変わることがなく、様子もそれまでと同じであった。来客や傍らに仕える者は、皆うろたえて転び、

③

問三 上の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

基礎 (1) 傍線部①の書き下し文として最も適当なものを、ア～エのうちから一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 倚る柱を破る所の
 イ 所の倚る柱を破る
 ウ 倚る所の柱を破る
 エ 破る倚る所の柱を

まず、返り点の付いていない字を読んで、次に読むのはどれかを考えよう。し点の付いた箇所を「二点で」はさんでいるからし点→二点の順に読むよ。



基礎 (2) 傍線部②「亦如故」とはどんな様子か。最も適当なものをア～エのうちから一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 手紙を書き続けていた。
 イ 衣服が焼け焦げた。
 ウ うろたえて転んだ。
 エ 顔色を変えた。

応用 (3) 傍線部③「不得住」の現代語訳として最も適当なものを、ア～エのうちから一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア じっとしていた。
 イ じっとしないわけにはいかなかった。
 ウ じっとしていられなかった。
 エ じっとしない者はいなかった。

応用 (4) この文章の伝えたいこととして最も適当なものを、ア～エのうちから一つ選び、記号に○を付けなさい。

- ア 服が焼けても平然としている太初は無神経な人だ。
 イ 柱を貫き、服を焼く自然の力は恐ろしい。
 ウ 人は雷が落ちるとうろたえてしまうものだ。
 エ 雷が落ちても平然としている太初は大物である。

